

令和元年度決算の概要

1. 教育・研究及び医療環境の整備

(1) [教育関係]

- ① 御井キャンパスでは、図書館システムおよび入退館システムの更新を行い、スマートフォンやタブレット等を含む最新のICT機器の対応が可能となり、利用者サービスの向上が図られました。
- ② 在学生の先端医療技術の早期教育、研修医教育の充実等、統合的な医療人育成を目的にダヴィンチ・シミュレーターを導入しました。
- ③ 附設高校校では、ICT教育関係機器の導入や体育館1階食堂の机・椅子を更新し、環境整備を行いました。

(2) [研究関係]

- ① 私立大学研究ブランディング事業では、新シーズの発掘として学内公募にて1課題を新たに選考しました。なお当事業は、文部科学省からの支援が令和元年度に終了するため、学内の研究事業実施委員会に諮り、残る2年間について、事業継続を決定しました。

(3) [医療関係]

- ① 令和元年9月に「がんゲノム医療拠点病院」(全国34カ所)として厚生労働省から指定を受けたことにより、当病院は、さらにがん治療における地域医療の中核的役割を担うことになりました。
- ② 医療センターでは、手術室および材料滅菌室の円滑で安全な業務遂行を目的に経年劣化していた減圧沸騰式洗浄機を更新しました。

2. 財務状況

【事業活動収支の状況】

事業活動収入計の573億2千8百万円から、事業活動支出計の573億円を差し引いた基本金組入前当年度収支差額は、2千8百万円となり、予算比で1千7百万円の減となりました。

内訳として、経常収支差額は△2億6百万円となり、予算比では3億7百万円の減となりました。主な要因としては、教育活動収支における経常費等補助金で収入減、教育研究経費で支出増となりました。

臨時的な収支を示す特別収支差額は2億3千4百万円となり、予算比で資産売却差額等により1億8千9百万円の増となりました。

基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計12億5千3百万円を差し引いた当年度収支差額は、12億2千5百万円の支出超過となりました。

以上のことから、基本金組入前当年度収支差額は黒字となったものの、安定した財務基盤確立に向け、本業である教育活動収支の改善を図り、基本理念、将来構想の実現に向けて取り組んでまいります。

【資金収支の状況】

収入の部小計の858億8千1百万円から、支出の部小計の861億7千万円を差し引いた当年度収支差は、△2億8千9百万円となり、予算比では7億8百万円の減となりました。

予算比の主な増減は、事業活動収支状況に加えて、収入の部では資産売却収入の減、支出の部では施設関係支出、設備関係支出、資産運用支出で減となりました。

以上の結果、翌年度繰越支払資金は、44億5千2百万円となりました。

【貸借対照表の状況】

資産の部合計は1153億4千2百万円で、前年度比15億1千1百万円減少しています。一方、負債の部合計は309億9千7百万円となり前年度比15億4千万円減少しています。基本金と繰越収支差額を合計した純資産は843億4千5百万円となり、前年度比で令和元年度の基本金組入前当年度収支差額分の2千8百万円が増加しています。

◎財務書類等（財産目録・貸借対照表・収支計算書・事業報告書・監査報告書）の閲覧の請求は、財務部経理課で承ります。